

【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2025 年 9 月 4 日
明治大学の所属学部・研究科 ※学部・学科・研究科・専攻等	理工学研究科 機械工学専攻
留学(渡航)した時の学年	1 年生
帰国年月日	2025 年 8 月 31 日
明治大学卒業予定年月	2026 年 3 月
留学先大学について	
留学先国	オーストラリア
留学先大学	ニューサウスウェールズ大学(日本語名) University of New South Wales(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	英語/英語
留学期間	2024 年 8 月～2025 年 8 月
留学先大学で在籍した学年	修士 1-2 年生
留学先の所属学部等	☐ 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名 日本語名: 現地言語での名称: ☒ 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している ☐ その他:
形態	☒ 国立 ☐ 公立 ☐ 私立 ☐ その他:
学年暦 ※記入例: 1 学期: 4 月上旬～7 月下旬 2 学期: 9 月中旬～2 月上旬	1 学期: 2 月中旬～5 月中旬 2 学期: 6 月上旬～8 月下旬 3 学期: 9 月中旬～12 月中旬 4 学期:
学生数	7 万人以上
創立年	1949 年

留学費用			
留学費用項目	A 現地通貨 (AUD) (1 現地通貨 = 95.29 円)	B 日本円	備考
授業料	0	0 円	交換留学のため協定校への授業料支払いはなし
宿舍費	17,000	円	週 \$ 300 のシェアハウスに約 56 週滞在
食費	3,000	円	週 \$ 50 ほどで自炊。外食は娯楽とし、計算からは除外。
図書費	0	0 円	履修した授業では全てオンライン教材が提供された
学用品費	0	0 円	持参したもので足りた
携帯・インターネット費	180	円	格安 SIM カードをスーパーマーケットで購入
現地交通費	0	0 円	大学のすぐ近くに滞在(☑大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費	3,000	円	週 \$ 50 ほど交際費などに充てていた
旅費(留学中)	7,000	円	メルボルン、ウルル、タスマニア、ニュージーランドの 4 か所へ旅行
被服費	200	円	不足していた衣類や冬物を現地でいくつか購入
医療費	0	0 円	一度も病やけがを負わなかった
保険費		245,000 円	形態: 明治指定の保険約 170,000 円と留学先指定の保険約 75,000 円
渡航旅費	1,250	99,000 円	往路: 99,000 円、復路: \$ 1250.78 (119,000 円)
ビザ申請費		78,000 円	
雑費		円	
その他		円	
その他		円	
合計 ※現地通貨 および 円	31,630 (=3,014,000 円)	422,000 円	下 3 桁切り捨て
総計(A+B) ※円		3,436,000 円	

※現地通貨で支払ったものは「A 現地通貨」の欄に、日本円で支払ったものは「B 日本円」の欄に記入し、総計も記入してください。

※現地通貨名、現地通貨と円の為替レートも必ず記入してください。

渡航関連

渡航経路

往路 出発地：羽田空港 目的地：シドニー空港 経由地：

復路 出発地：シドニー空港 目的地：羽田空港 経由地：

渡航費用

① 往復チケットを購入した場合

航空会社：

料金：

② 片道ずつチケットを購入した場合

往路 航空会社：ANA 料金：9,9000 円

復路 航空会社：ANA 料金：約 120,000 円（\$ 1,250） ∴合計：219,000 円

航空券購入方法

☐ 旅行代理店(店名：)

☒ インターネット(サイト名：ANA)

☐ その他()

滞在形態関連

1) 種類(留学中の滞在先)(例：アパート、大学の宿舎等)

☐ 学生寮(寮の名前：) ☒ アパート ☐ ホームステイ

2) 部屋の形態

☒ 個室 ☐ 相部屋(同居人数)

3) 共有部分

☒ バス ☒ トイレ ☒ キッチン(☒ 自炊可 ☐ 自炊不可)

4) 住居を探した方法：

Flatmate というアプリ/サービス。オーストラリアでの生活はよほど裕福でない限り、基本シェアハウスになると思うので、このアプリはお勧めです。他にも gumtree や facebook、大学の住居斡旋サービスなんかも利用しました。

5) 感想：(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

私はオウンルーム(キッチンやバスルームは共有するがプライベートルームがある)タイプのシェアハウスだったので比較的快適でした。シェアハウスというと日本人には少し抵抗があるかもしれませんが、意外と住めば都です。ただ、家によってはキッチンやバスルームなどの設備が不便だったりシェアメイトとの相性が悪かったりということもあるみたいなので、現地で実際に内見をしてから契約をした方が安心です。

現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。

(例: 現地の病院、学内の診療所)

☒ なし

☐ あり (治療を受けた場所:)

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

☒ なし

☐ あり (問題の内容や相談した人等:)

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

犯罪などには巻き込まれなかったが、友人が知らない人に突然声をかけられたり、子供に財布を盗られそうになったりしたそうです。大学内の危険等の情報は、大学側が常に発信してくれていました。地域の情報は、SNS のニュースアカウントをフォローしてそこから取得していました。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地で利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で 1 週間に 1 度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使えない時はカフェに行った。)

シドニー内で、携帯の電波が悪いということは全くありませんでした。滞在先の家の Wifi は時々不安定になることはありましたが、大学内の Wifi は常に安定していた印象です。街中でも Wifi が利用できる場所は多くあります。

5) 現地で資金調達はどのように行いましたか?

(例: 現地に銀行口座を開けて日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

現地で自身の銀行口座を開けて親族から送金してもらっていました。海外送金には、WISE というサービスが便利で手数料も安く、オススメです。銀行口座は日本で仮開設して、現地で住所と電話番号を取得後、すぐに本開設をすることができました。銀行からもらえるデビットカードを使用していました。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

オーストラリアは電圧が 220-240V と高いので、それらに対応している製品を持参する必要があります。あとは日本の電化製品のプラグはオーストラリアでは使えないので、変換プラグ(0 型)をいくつか持参することを強く勧めます。現地でも買えないことはないですが、見つけるのは少々大変かもしれません。それ以外は基本的には現地で何でも買えると思います。多くはないですが、日本食が売っているスーパーやダイソーなども都市部にはあります。

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1) 留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
48 単位	☐ 単位 ☐ 単位認定の申請はしません(理由:)
2) 履修登録の時期・方法及び履修制限	
☒ 出発前 ☒ 出発後 ☐ 派遣先大学の事務室 ☒ オンライン ☐ メール ☐ その他() ☒ 履修の制限があった: 履修希望を申請し、承認されたら履修可能になる。しかし、承認された授業であっても人数制限があってどれも早い者勝ちなので、人気の授業はすぐに定員が埋まってしまっていた。	
3) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人々へのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Entrepreneurial Engineering	起業家工学
科目設置学部・研究科	Faculty of Engineering
履修期間	T3 2024
単位数	6
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義+チュートリアル(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 120 分が 2 回
担当教授	Francois Ladouceur
授業内容	この講義は、エンジニアが自身の技術的スキルを活かし、会社を立ち上げるための基本的なプロセスを学ぶことを目的としている。具体的には、起業の機会を見つける方法、チームの組成、資金調達、そして会社の成長と直面する課題への対処法などが内容に含まれている。このコースは、主に電気工学・通信工学の学生を対象としているが、他の工学部の学生も参加できる。専門的なビジネス知識は前提とせず、エンジニアリングの観点からハイテクベンチャーの創出について学べるように構成されている。
試験・課題等	課題 3 つ+期末試験
感想を自由記入	テクノロジー系ビジネスの近年の動向や、テック企業の起業ノウハウ、基本的な知識などを学ぶことができた。また、チュートリアルでは、実際の起業家の方々を毎週招いて、成功の秘訣やエピソードなどを生で聞くことができ、非常に興味深かった。このような授業は個人的にはあまり日本ではないと思うので、すごく良い経験になった。

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Engineering Postgraduate Coursework Research Skills		工学修士課程研究スキル
科目設置学部・研究科	Faculty of Engineering	
履修期間	T3 2024	
単位数	6	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義+チュートリアル(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 60+120 分が 1 回	
担当教授	Ned Ekins-Daukes	
授業内容	この講義は、修士課程における研究プロジェクトを遂行するためのスキルと戦略を育成することを目的としている。具体的には、研究テーマの策定、プロジェクト管理、文献の検索と評価、執筆、発表、学術的誠実性といった、研究プロセス全体に必要な能力を養う。また、共同研究に必要な対人スキルや、専門家・非専門家双方に研究内容を分かりやすく伝えるコミュニケーション能力も育成する。	
試験・課題等	課題 3 つ+期末課題	
感想を自由記入	工学系の研究者の要請を目的とされていた授業であった。本授業では、大きくグループプロジェクトと個人プロジェクトの 2 つを行った。グループプロジェクトでは、割り当てられたグループで環境問題に対する技術的なソリューションの提案/発表を行い、個人プロジェクトでは、自身の興味のある分野(工学系の分野)の中で課題を発見し、それを解決する手法/実験を提案するというを行った。グループプロジェクトはグループメンバーの運があり、やる気のないメンバーが多いグループだと、本当に大変だったと思う。また、大きな課題が 4 つ出題されたが、他の講義よりも多かったので大変だった。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)	
Research Roundations Art & Design		アート&デザイン研究基礎	
科目設置学部・研究科	Faculty of Arts, Design and Architecture		
履修期間	T3 2024		
単位数	6		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	オンライン講義+対面チュートリアル(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1 週間に 60+180 分が 1 回		
担当教授	Katherine Moline		
授業内容	この講義は、アートとデザイン分野の大学院生を対象とし、研究を自身のクリエイティブな実践に統合するための基礎を築くことを目的としている。具体的には、アートやデザインを研究として捉える方法を学び、創造的かつ実践的なアプローチで独立した調査を進めるための手法や理論を習得する。学生は様々な研究分野を探索し、将来の主要なプロジェクトを計画、実施、評価する自信を養う。		
試験・課題等	課題 2 つ		
感想を自由記入	人の行動とアートやデザインの関係に着目し、一学期かけて自身で研究テーマを考案し、研究/実験手法を提案するという授業だった。私はエンジニアリングデザインを専攻しており、その中の感性工学という分野に興味があったので、「室内空間における多感覚刺激(においや光、色、音など)が人間の快適性に及ぼす影響」という、空間デザインについて研究を行った。課題の評価は比較的甘めであったが、ヘビーである程度の時間と労力を要した。		

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Communication Skills for Creative Disciplines		創造的分野におけるコミュニケーションスキル
科目設置学部・研究科	Faculty of Arts, Design and Architecture	
履修期間	T1 2025	
単位数	6	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義+チュートリアル(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 60+180 分が 1 回	
担当教授	Olivier Krischer	
授業内容	この講義は、創造的な分野で活動する人が、複雑なアイデアを明確に伝え、自身の「声」を確立することを目的としている。学生は、この分野に適したコミュニケーション戦略を学び、アカデミックな読解、執筆、聴解、会話の能力を向上させる。また、授業内外での協働を通じて、多様なツールを使いこなし、同僚や専門家、一般の人々と効果的に交流する方法を身につける。	
試験・課題等	課題 3 つ	
感想を自由記入	創造的な分野におけるコミュニケーション能力の発展を目的としているそうだが、広く、「研究者」として必要なコミュニケーション能力を培う授業だった。例えば、論文の書き方や読み方、プレゼンの仕方や学会発表のノウハウなどである。「日本式」ではなく、「海外」のこういった授業を履修できて面白かった。課題自体は短いプレゼン 1 つと簡単なエッセイが 2 つで、課題という意味では非常に容易であった。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Digital Cities		デジタル都市
科目設置学部・研究科	Faculty of Arts, Design and Architecture	
履修期間	T1 2025	
単位数	6	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義+チュートリアル(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 60+120 分が 1 回	
担当教授	Negin Nazarian	
授業内容	この講義は、都市デザインや計画、政策立案におけるデジタルデータの活用について探求するものだ。学生は、UNSW での実際のプロジェクトを通して、多様な空間データセットに触れ、それらが政策立案の改善にどのように役立つかを学ぶ。オーストラリアの都市、特にシドニーを主な実験場とするが、国際的な視点も取り入れる。また、スマートシティの台頭に伴う政治的・権力構造の複雑さや、データアクセス、知識の生産と普及に関する課題についても批判的に検討する。	
試験・課題等	課題 3 つ	
感想を自由記入	エンジニアリングデザインを専攻する中で、都市デザインにも少し興味があったので履修してみた。大規模データの取り扱いやマクロやミクロとしての都市の機能、技術的/政治的側面などを学ぶことができた。課題の最低語数がいずれも多く、漠然としたテーマで長いエッセイを書かなければならなかった点で苦労をした。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)	
Researching Art, Architecture and Design		アート、建築、デザイン研究	
科目設置学部・研究科	Faculty of Arts, Design and Architecture		
履修期間	T1 2025		
単位数	6		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義+チュートリアル(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1 週間に 60+180 分が 1 回		
担当教授	Cristina Garduno Freeman		
授業内容	この講義は、現代アートと自身の専門分野との関連性を探求することを目的としている。学生は、地元の美術展や公共アートプロジェクト、ギャラリーなどを通して特定の美術作品を調査し、自身の専門分野独自の視点やアプローチで現代アートを分析する。そして、発見した内容を視覚的、言語的、書面による演習を通じて、専門的な環境での議論や発表を模倣する形で表現する。。		
試験・課題等	課題 3 つ		
感想を自由記入	この講義では、その学期中に 4～5 回フィールドワークのような形で公共建築物やパブリックアート、美術館などを訪れ、鑑賞するということを行い、非常に楽しかった。エンジニアリングデザインを専攻しているので、アートや建築、デザインといった広く「デザイン」に触れることができ良い経験になった。課題自体は簡単なエッセイのみであった。		

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Managing Immersive Projects		没入技術プロジェクトマネジメント
科目設置学部・研究科	Faculty of Arts, Design and Architecture	
履修期間	T2 2025	
単位数	6	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	オンライン講義(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 120 分が 1 回	
担当教授	Gary Eves	
授業内容	この講義は、没入型技術をビジネス環境で効果的に活用するためのプロジェクト管理方法を学ぶものだ。学生は、没入型システムの設計、導入、運用における意思決定を支援するスキルを身につける。具体的には、ニーズ分析の実施や、没入型システムとシミュレーション環境の相対的なメリット、価値、スケーラビリティを評価し、ビジネスケースを構築する方法を学ぶ。	
試験・課題等	課題 3 つ	
感想を自由記入	授業が全てオンラインで行われるため、場所を選ばず参加できるが、内容が実践的で発展的なので集中力を要した。また、全部で 3 つの課題が出題されるが、そのどれも採点基準が非常に厳しく、留学期間中の全ての授業の中で一番苦戦した。最後の課題では、チューターと外部のエンジニア?の方々に対し、自分が考案した VR/AR のビジネスプランのプレゼンを行った。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Architecture and the City		建築と都市
科目設置学部・研究科	Faculty of Arts, Design and Architecture	
履修期間	T2 2025	
単位数	6	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義+チュートリアル(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 120 分が 2 回	
担当教授	Peter Kohane	
授業内容	この講義は、都市との関連性という観点から著名な建築物を分析する。都市の歴史そのものを扱うのではなく、個々の建築物が持つ文脈、外観、内観をどのように解釈するかを探究する。各講義では、ルイ・カーン、ヨーン・ウツソン、SANAA といった現代の建築家や事務所の作品を例に、理論や過去の代表的な成果を学び、一つの建築物の意義を深く考察する。	
試験・課題等	課題 3 つ	
感想を自由記入	指定された複数の建築物の中から、自身が選んだ建築物について、1 学期にわたって自由に調査をし、そこから得られた視点や主張をエッセイにするという課題が 3 つ出題された。選んだ建築物のスケッチ(下手でも問題ない)を行う必要があったが、スケッチ自体は意外と楽しかった。私は折角シドニーに留学していたので、オペラハウスについての研究・調査を行った。	

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください。(下記2以降は記入不要)

☒就職 ☐進学 ☐未定 ☐その他:

1) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関等

外資就活ドットコム、One Career

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。
内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません。
就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

BOSCH と日立製作所から内々定をいただき、BOSCH に就職することを選びました。理由としては、日本のオフィスでありながら、日常的に英語を使用して働ける環境であることと、勤務地や待遇・福利厚生が一般的なメーカーと比較して非常に良かったからです。また、日立は研究職のポジションでしたが、アカデミックな側面だけでなく、ビジネス的な側面も学びたいと思い、プロジェクトマネジメントチームと連携する開発職で働ける BOSCH を選びました。

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。
(例: 留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。)
就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。
ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。
就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

私自身、修士1年の夏という、就活の準備期間が始まる時期に留学を開始し、就活本格スタート後も、留学先で就活を行わなければならないということで、留学前は非常に悩みましたし、不安でした。しかし、就活を経験した身から言わせていただくと、意外と何とでもなります。留学の期間や時期にもよりますが、確かに留学生は、日本にずっといながら留学をしない学生の方々よりも、就活のやりやすさや準備のしやすさでは不利だと思います。ただ、留学経験を就活に活かすことができるというアドバンテージもあるし、何より留学で経験できることの数々を、「就活がしやすいから」という理由だけで諦めてしまうのは本当にもったいないと思います。近年は、面接も全てオンラインで対応してくれる企業がかなり増えてきているので、時差以外では日本にいる学生と選考時の条件はほぼ変わらないですし、留學生活中の隙間時間にESや面接の練習をすれば、本当にどうとでもなります。さらに、留学に行くことで、「こんな生き方があるんだ」、「あんな仕事してみたいな」など、仕事観/人生観が変わることも十分考えられます。そういう意味では、留学によってより良いキャリア/人生を切り開くことができるといえるかもしれません。勿論就活は大変なのである程度の覚悟と自己管理が必要にはなりますが、帰国前や留学中の隙間時間にしっかり就活の準備を行えば、必ず乗り越えられるはずですよ。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先確保、留学中の中間試験・期末試験、その他イベント等)

留学開始年の 前年	1 月 ～ 3 月	
	4 月 ～ 7 月	IELTs 取得
	8 月 ～ 9 月	交換留学生選考期間
	10 月 ～ 12 月	交換留学生採択
留学開始年	1 月 ～ 3 月	継続的な語学勉強
	4 月 ～ 7 月	航空券、VISA、保険手続き&住居リサーチ
	8 月 ～ 9 月	渡航&授業開始(1 学期目)
	10 月 ～ 12 月	授業
留学/帰国年	1 月 ～ 3 月	夏休み&授業開始(2 学期目)
	4 月 ～ 7 月	タームブレイク&授業開始(3 学期目)
	8 月 ～ 9 月	帰国
	10 月 ～ 12 月	

留学を志す学生へのアドバイス

※ これから留学を志す学生へ、この留学先国・大学を選んだ理由、留学生活全般等について、アドバイスを記入してください。

これから留学を志す学生へのアドバイスとしてまず伝えたいのは、留学先の国や大学を選ぶ際には、自分がどのような環境で学び、過ごし、どのように成長したいのかを明確にすることです。例えば、私がオーストラリアを選んだ理由は、教育水準の高さと多文化共生の社会に惹かれたからです。大学も世界的に評価が高く、優秀な学生が集まる環境で学ぶことで、自分を高められると感じました。都市によって文化や環境は様々ですし、大学によっても強みや特徴が異なります。自身が思い描く理想のなりたい自分や留学生活が、より実現できそうな環境を選ぶことをおすすめします。

また、留学生活全般に関しては、インターネットや SNS などで見られる「華やかさ」だけを期待せず、現実には多くの課題や苦勞が伴うことも理解しておくことが大切です。授業では課題の量や質が日本の大学以上に厳しく、アカデミックな英語に苦勞することもあります。しかし、その分だけ学習効果も高く、努力しただけ確実に自分の力になります。英語力はあればあるほど留学生活の満足度が高まるので、出発前からしっかり鍛えておくことを強くおすすめします。

さらに、学業だけでなく大学外での活動や人との交流も、留学の大きな醍醐味です。私自身、アウトドアサークルに参加し、ローカルの学生や他国からの留学生と交流することで、多様な価値観に触れることができました。生活面でも、寮やシェアハウスなど滞在形態にはそれぞれ利点があり、自分の性格やライフスタイルに合ったものを選ぶと良いと思います。

留学は不安や困難も伴いますが、それ以上に「世界は広い」「こんな生き方もある」と気づかせてくれる貴重な経験になります。迷っているなら、ぜひ一歩踏み出してほしいと思います。私がそうであったように、その決断が、必ず人生を大きく好転させるきっかけになるはずです。